

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大 学 名	国際基督教大学
整理番号	B13
構 想 名	信頼される地球市民を育むリベラルアーツのグローバルな展開

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">S	優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。
(コメント) <p>本構想は、大学の理念に則り、開学以来取り組んでいる日英両言語によるバイリンガル・リベラルアーツ教育を世界に開かれた「グローバル・リベラルアーツ教育」へと発展させるため、教育改革、徹底した国際化、教育力向上の取組を進めることで、国際的社會人としての教養をもつ有為の人材の育成を目標としている。</p> <p>本構想による事業は、平成29年度中間評価以降も順調に、かつ着実に進展している。例えば、世界に開かれた学生受け入れ制度として、平成30年度から、国際学生というカテゴリで、多様な言語背景を持つ学生の受け入れを開始している。徹底した国際化の取組としては、留学プログラムの多様化、多様なアカデミックパスの提示などがあり、結果として、外国人留学生の増加、日本人学生の留学増加に繋がっている。</p> <p>教育力向上の取組に関しては、学修・教育センター（CTL）の機能統合が、平成30年に完了するとともに、本構想による数々の取組において、CTLが主要な役割を担うなど、十分な機能を発揮している。ガバナンスについては、教員はもとより、特に職員の語学力の向上が目覚ましく、国際性の向上に一定の寄与をしていると思われる。</p> <p>全体として、バイリンガル・リベラルアーツ教育の徹底、多様な言語背景をもつ志願者の受け入れと、十分な語学教育の実施のために、教育・学修はもとより大学運営においても相当の労力を費やしている点は高く評価される。</p> <p>財政支援終了後を見据えた自走化計画に関しては、大学の保有資産の一部を本事業の自走化基金とし、長期的な予算の財源として、この基金の運用益が充当される予定になっているので、予算面での不安もない。</p> <p>本事業開始から7年を経て、当初計画した本構想の目標は、最終的に十分に達成できると思われる。ただし、大学の国際化に関しては、ゴールはないので、立ち止まることなく、より高い目標を目指して、引き続き改善に取り組まれることが望まれる。高度な人材育成に向け、更に意欲的な取組が展開されることを期待したい。</p>	